

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：32309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：15K11679

研究課題名(和文) 高年初産婦とパートナーのための育児支援プログラムの開発と介入効果の検討

研究課題名(英文) Development of program for older primiparas and examination of intervention effect

研究代表者

中島 久美子 (NAKAJIMA, Kumiko)

群馬パース大学・保健科学部・准教授

研究者番号：50334107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：1. 高年初産婦の身体的精神的健康を高め、夫婦の親密性の強化を目指した妊娠期プログラムを開発、実施した。プログラムは講義と参加型演習で構成された。プログラム内容は参加者の80%が妻の身体的精神的負担を認識し、85%は夫のサポートの重要性を実感し、85%は産後の夫婦間のコミュニケーションの有用性を理解した。

2. プログラム評価を2群で比較した(参加群15組、対照群15組)。夫のサポートへの妻の満足度は、対照群で産後1ヶ月よりも3ヶ月で下位尺度「夫の家事と育児」が有意に低く($p < .05$)、妻のEPDS(エジンバラ産後うつ病自己評価表)は参加群で産後1ヶ月よりも3ヶ月で有意に低かった($p < .05$)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で開発した高年初産婦の夫婦を対象とした妊娠期プログラムは、高年初産婦の身体的精神的健康と夫婦の親密性を高めるプログラムであることが参加者のプログラム理解度および満足度から確認された。さらに、妊娠期プログラムの参加群と対照群との比較検討した結果、参加群は夫のサポートへの妻の満足度の低下を回避でき、妻の精神的健康は産後3ヶ月で回復が確認された。近年、我が国で増加している産科的ハイリスクの高年初産婦が産後の身体的精神的健康を高め夫婦の親密性の発展を目指したこのプログラムを国民に広く活用することにより、学術的意義および社会的意義がある研究といえる。

研究成果の概要(英文)：1. In this study, we developed and carried out a program to increase physical and mental health and enhance marital intimacy for older primipara couples during pregnancy. The program consists of lectures and participatory exercises. In the evaluation process, 80% of the participants were aware of the wives' physical and mental burden; 85% felt that support from the husband was important; and 85% understood the usefulness of communication between partners after the birth.

2. To evaluate the program, we compared the two groups of couples who participated and those who did not (participation group; $n = 15$, control group; $n = 15$). Wives' satisfaction with their husbands' support was significantly lower in the control group on the subscale "housework and childcare by husband" at three months compared to one month postpartum ($p < .05$). The wife's EPDS was significantly lower in the participating groups at 3 months ($p < .05$) than at 1 month postpartum.

研究分野：母性看護学・助産学

キーワード：高年初産婦 夫婦関係 プログラム開発 介入効果

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国の合計特殊出生率の推移は、平成 25 年には微増傾向の 1.43 であったが、なお楽観できない状況である(厚生労働省「人口動態統計」)。また、約 10 年間で母親の年齢が 35 歳以上の出産割合は倍増し、平成 25 年では 26.8%と推移している。高年初産婦では、社会的役割に加えて親としての役割への適応が課題となるだけでなく、高齢のため妊娠・出産の異常の発生率が高く、産後は高齢のため家事・育児の身体的負担が増大し、心身の健康を脅かされ育児不安や抑うつ状態に陥る可能性がある。特に高年初産婦の夫婦間の調整力や夫婦の親密性の発達が重要となる。

2000 年の国民運動「健やか親子 21」では、児童虐待の増加という社会的観点から育児支援の必要性が取り上げられ、その一因に産後うつ病が注目されている。産後うつの危険因子の中でも夫婦関係と育児不安は看護介入での効果が認められており(新井, 2006)、周産期の医学的知識を持ち、心理的側面に寄り添える存在である助産師による支援が注目されている(佐藤・佐藤, 2010)。高年初産婦に対しては、妊娠中からの看護ケアや医療管理は行われているものの、産後においては特別なケア提供のガイドラインは国内外には見当たらず、森ら(2014)は、高年初産婦への子育て支援に焦点を当てた「高年初産婦に特化した子育てガイドライン」を開発した。この高年初産婦向けの子育て支援ガイドラインには、産後の回復や蓄積疲労予防、産後うつ病予防のためのケアや母親役割獲得の自信と満足のためのケアについて記されている。この様に近年になって高年初産婦の子育て支援に関する研究が行われているが、高年初産婦の夫婦に焦点を当てた、妊娠中からの支援プログラムの開発とその効果に関する研究は見当たらない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高年初産婦とパートナーを対象に妊娠期から産後 3 ヶ月までの夫婦支援プログラムを開発し、高年初産婦の心身の健康及び夫婦の親密性を強化するプログラムの効果を検証することである。

具体的には、以下の 3 点である。

(研究 1)

プログラムの準備段階として、質的研究により高年初産婦とパートナーを対象に妊娠期から産後 3 ヶ月の夫婦関係の変化、高年初産婦の心身の健康状態を明らかにする。

(研究 2)

妊娠期の高年初産婦の夫婦を対象に、高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性に焦点を当てたプログラムを実践し、質的帰納的に分析する。

(研究 3)

研究 2 のプログラム介入群と対照群の介入前後の量的研究により、高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムの効果を検証する。

3. 研究の方法

(研究 1)高年初産婦とパートナーの妊娠期から産後 3 ヶ月の実態調査

高年初産婦とパートナーを対象にインタビューを行い妊娠期から産後 3 ヶ月までの夫婦関係の認識と高年初産婦の心身の健康状態を明らかにする。

1. 対象：妊娠期、産後 1 ヶ月、3 ヶ月の高年初産婦とパートナー

2. 方法：妊娠期、産後 1 ヶ月、3 ヶ月の 3 時点で高年初産婦の夫婦を対象に面接を実施する。

3. 調査内容：() は質問紙にて把握)

属性：妊娠・出産・産後の母子の経過、母乳育児状況、家族構成、家事育児の手伝い等。

高年初産婦の心の健康状態、身体的疲労感の自覚。

夫婦各々の「夫婦の親密性」「家族システム」「親になる意識」の認識。

(研究 2)高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化する育児支援プログラムの実践

妊娠期の夫婦を対象に、研究 1 の質的研究結果を基に開発した少人数参加型プログラムを実践し、プログラムの内容を検証する。

1. 対象：高年初産婦の夫婦(介入群)

2. 方法：介入群の夫婦に対して、出産予定日の近い夫婦にグループ化し、少人数参加型プログラムを実施する。プログラム内容は、高年初産婦の心身の健康状態、及び、夫の関わりの重要性を情報提供、夫婦の思いについて参加者間の意見交換、夫婦で行うリラクセス法。

3. 調査内容：妊娠期プログラム終了後、プログラム内容の理解度、満足度について、5 段階スケールにより評価。さらに、自由記述でプログラム参加の意見を求めた。同様に、産後 1 カ月、3 カ月時点で、妊娠期のプログラムが産後の夫婦にどのように活かされているかを調査した。

(研究 3)高年初産婦のパートナーのための支援プログラムの効果の検証

介入群と対照群の介入前後の量的研究により、高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性の強化に対する効果を検証する。

1. 対象：高年初産婦の夫婦(介入群、対象群)(介入群は、研究 2 と同一の対象)

2. 方法：妊娠期介入前(A時点)、産後早期；1カ月(B時点)、産後介入後；2-3ヶ月(C時点)の合計3時点において、介入群と対照群の夫婦関係、高年初産婦の心身の健康状態を比較検討する。

3. 調査内容：QMI(夫婦関係満足度)、妻への夫の関わり満足感尺度、産後うつスクリーニング(EPDS)、妻の疲労蓄積度・身体症状。

4. 研究成果

(研究1)高年初産婦とパートナーの妊娠期から産後3ヶ月の実態調査

夫婦8組の妊娠期、産後1カ月、産後3カ月の妻の心身の健康状態と妻が満足と感じる夫の関わりが明らかとなった。高年初産婦は高年齢であることで産後の心身の回復や母児の生活リズムへの適応に負担を抱くが、妻の満足感を高める夫の関わりによって、妻の心身の健康を安定へと導き、夫婦の協同のもと家庭内役割を担っていた。

(研究2)高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化する支援プログラムの実践

研究1の質的研究結果を基に少人数参加型プログラムを開発した。開発したプログラムを参加夫婦15組に実践した。その結果、プログラムの理解度、満足度ともに高い評価が得られた。プログラム内容では、参加者の80%は妻の身体的精神的負担を認識し、85%は夫のサポートの重要性を実感し、85%は産後の夫婦間のコミュニケーションの有用性を理解した。プログラム参加者の評価から、高年初産婦の心身の健康状態の理解を深め、夫婦の親密性を強める内容であることが分かった。

(研究3)高年初産婦のパートナーのための支援プログラムの効果の検証

プログラム評価を2群(参加群n=15、対照群n=15)で比較した結果、以下の点が明らかになった。夫のサポートに対する妻の満足度は、対照群で産後1ヶ月よりも3ヶ月で下位尺度「夫の家事と育児」が有意に低く($p < .05$)、妻のEPDS(エジンバラ産後うつ病自己評価表)は、参加群で産後1ヶ月よりも3ヶ月で有意に低かった($p < .05$)。よって、高年初産婦の夫婦を対象にしたプログラムは、産後の夫の家事育児の関わりと妻の精神的健康に効果が得られるプログラムであることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中島久美子, 荒井洋子, 岡崎友香.	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 不妊治療中の夫婦におけるパートナーシップの認識と夫婦関係満足度および妻の精神的健康の関連性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本生殖看護学会誌	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kumiko Nakajima, Atsumi Usui, Yuko Hayakawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Feelings of older Japanese primiparous couples and satisfaction of older primiparous wives with their husbands' support during pregnancy: Focus on the perceptions of pregnant couples	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/nop2.509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kumiko Nakajima, Atsumi Usui, Yuko Hayakawa
2. 発表標題 THE HUSBANDS' FEELING AND SUPPORTIVENESS TO OLD PRIMIPAROUS WIVES' SATISFACTION DURING PREGNANCY
3. 学会等名 The International Marce Society Biennial Scientific Meeting 2018 Bangalore, India. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島久美子, 白井淳美, 廣瀬文乃, 依田真由子, 早川有子
2. 発表標題 妊娠期における高年初産婦の思いと夫の関わり
3. 学会等名 第32回日本助産学会、パシフィコ横浜 (神奈川)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島久美子, 臼井淳美, 廣瀬文乃, 早川有子
2. 発表標題 産後1カ月から3カ月における高年初産婦の心身の健康状態と夫の関わり
3. 学会等名 第59回日本母性衛生学会、朱鷺メッセ(新潟)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島 久美子, 臼井 淳美, 廣瀬 文乃, 早川 有子
2. 発表標題 産後1カ月から3カ月において高年初産婦の夫が認識する妻が満足と感じる夫の関わり
3. 学会等名 第33回日本助産学会、福岡国際会議場(福岡)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島久美子
2. 発表標題 ワークショップ:助産実践に求められる尺度とその開発-「妊娠期の妻への夫の関わり満足感尺度」
3. 学会等名 第31回日本助産学会、あわぎんホール(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島久美子, 臼井 淳美, 早川 有子
2. 発表標題 妊娠期から産後3カ月間の高年初産婦夫婦が認識した夫の関わりと夫婦の関係性の変化
3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会、幕張メッセ(千葉)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島 久美子, 廣瀬 文乃, 臼井 淳美, 早川 有子
2. 発表標題 高年初産婦の心身の健康と夫婦の親密性を強化するプログラムの実践 産後プログラムの評価
3. 学会等名 第34回日本助産学会、オンライン学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kumiko Nakajima, Atsumi Usui, Ayano Hirose, Yuko Hayakawa
2. 発表標題 The practice of small group participatory programs that enhance the physical and mental health of older primipara and marital intimacy
3. 学会等名 ICN congress 2019 in Singapore (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	廣田 幸子 (Hirota Satchiko) (00587678)	群馬パース大学・保健科学部・准教授 (32309)	
研究 分担者	臼井 淳美 (Usui Atsumi) (20444929)	群馬パース大学・保健科学部・講師 (32309)	